

東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)支援募金活動の実施報告

日本ボーイスカウト兵庫連盟

副コミッショナー 高橋 正 幸

世界最大級の巨大地震とその後の大津波の直後、被害の全貌もまだ判明していない3月11日夜、白川龍彦県ユース委員長から、「明日(12日)のVLACの会議の後、急きょ支援活動を行いたい」との電話連絡がありました。

テレビを通じて知る状況はごく一部でしかありませんでしたが、阪神・淡路大震災を体験した兵庫のスカウトならではの思いがユース、VLACを動かしていたのでしょう。彼らの熱い思いに突き動かされ、街頭募金活動をすることになり、手続きもあまり考えず、「わかった、支援する」と応え、当日、県ユース、VLACのメンバー、家門秀行県副コミッショナーとともに募金活動、募金の寄託まで行動をとりました。

今後の募金活動に参考としていただくため、取り急ぎその経緯と概要を報告いたします。

◎今できることは？

地震の発生直後は、テレビの向こうからは悲惨な状況が断片的に伝わるのみで、被害の規模、実態、現地の状況の全体像は全くつかめず、どちらかという少し過少な考えたいという希望的な思いはありましたが、阪神・淡路大震災の経験に照らし、今回の災害による被害ははるかに大きく、さらにまだまだ拡大することを直感的に感じざるを得ませんでした。

白川ユース委員長は「今、何をしたらいいんでしょう？救援物資ですか？募金ですか？現地に行けるでしょうか？」と悲痛な声で電話してきました。やむに已まれぬ思いから、すぐにも被災地に飛び込んでいけかねない熱い思いに共感すると同時に、阪神・淡路大震災当時、神戸市職員として災害復旧に関わった私自身の経験が待ったをかけさせました。

大災害の直後は公共交通機関は途絶し、輸送ルートがまだ確保されていないところも多く、被災地の実態は全くと言ってよいほどわかりません。今回の震災においても、ガソリンなど燃料の不足は深刻で、食料・水など必須の救援物資すら配送に苦労している状況です。現時点でやみくもに現地に行くことは、戦力として役に立たないばかりか、救援活動の足を引っ張ることもあるということを考えておかねばなりません。

やみくもに現地へ行くことは被災地からすれば、邪魔者以外の何者でもなく、ボランティア自身の安全すら守れないこともあります。

現在、仙台市でようやくボランティアセンターが立ち上がったという情報も入っていますが、一方で、仙台への他都市(例えば神戸市)からの救援隊の宿舎すら確保されておらず、支援職員は事務室や



会議室の床やテーブルに持参の寝袋で寝ており、支援職員の食料、水等はすべて神戸から持参しています。また、ボランティアが何をするか、どのようなニーズに対応すべきか調整するための経験のあるコーディネーターもほとんどいないのが実情で、もし、被災地に入るとすれば、自分たちの食料、水、生活資材(寝袋、水具、燃料、テントなど)すべてを自分で準備し、被災地で何をするか、そのための資材(例えば配給するための衣料、医薬品、食料など)までも持参する完全自己完結型でなければ、効果的な活動は展開できないと考えなければなりません。

今後、時間の経過とともにボランティアの受け入れ態勢が整ってくるのが予想されますが、現時点ではまず被災地外でできることを考え、行動することが大切だと白川委員長にアドバイスをしました。

被災地外での具体的な支援方法として考えられるのは、第1に募金活動、第2に救援物資の送付ということになりますが、救援物資については、阪神淡路大震災で寄せられた救援物資の中には実際には使えないものが数多く含まれ、受け入れ作業の人員や保管場所の確保、仕分け・配送作業など受け入れ側の大きな負担となった実態があり、現在、被災地では個人からの救援物資を断っているのが実情です。一方の募金も、阪神淡路大震災では3800億円を超える前例のない義援金が寄せられましたが、にもかかわらずこれを被災者に配分するとわずかな額になってしまい、残念ながら、生活を再建する力とするにはあまりにも少ないものでした。裏返すと、お金はどれほど多くても邪魔にはならない、むしろ、できる限り多くの浄財を長期にわたって被災地に送ることが大切で、現時点では、兵庫のスカウトの支援活動の中心として取り組むべきものと言えます。

また、阪神・淡路大震災では、全国のスカウト仲間から多額の義援金が兵庫連盟に寄せられており、スカウト仲間への恩返しへの支援も考えられますが、今回は、まず多くの被災された方々への支援を考えるべきだということになり、①「一般義援金募金」を募る、②被災地への関心を高め、③支援を集めようという目的・趣旨を明確にし、今、私たち(VLAC,ユース)ができること、やるべきこととして、街頭募金活動を実施し、コミ・クルーはそれを支援することになりました。

◎義援金募金の実施にあたって

3月12日(土)13時から神戸市立兵庫勤労市民センターで行われたVLACの活動計画打ち合わせの後、家門副コミッショナーと私から、阪神・淡路大震災の体験を簡単に話し、募金活動の目的・趣旨、活動の意義を確認し、三宮に移動し、交通センタービル前の歩道で15:40から1時間にわたり募金活動を行いました。

・事前の準備

白川ユース委員長が横断幕を作成し、募金箱は私のほうで2個用意しました。

最近はいたるところで各種の団体によって募金活動が行われており、中にはその趣旨、実施主体に首をかしげるようなものさえあります。募金活動の主体、趣旨を明確に伝えなければなりません。

また、募金の寄託先を決めておく必要がありますが、今回は「日本赤十字社」か「神戸新聞社」に届けようと事前の相談で決めました。

この他、白川委員長がMixiを通じて、街頭募金の実施を伝え、告知とともにユース年代のスカウトの参加を呼びかけました。



・募金の実施



VLAC 3名、ユース 3名、県コミ・クルー 2名で募金活動が始まりました。

この時点で募金活動を行っていたのは他に1団体のみで、神戸市内で(全国のボーイスカウトでも)最も早く取り組んだグループであったと思います。その後、順次遠方から駆け付けたスカウトを含め、9名で最後まで募金活動を行いました。

市民の反応は思っていた以上にすごいものでした。

阪神・淡路大震災を体験されたであろう高齢の方のみならず、

ベンチャー、ユース年代の若者たちが次々募金し、募金を呼びかけるスカウトの声も自然に大きくなり、通りすぎかかって、戻ってくる方もいました。小さな子供も協力してくれました。

救援活動の進め方を相談される方や募金の趣旨を確認される方もあり、これにはコミ・クルーが対応させていただきました。

女性の手には重すぎるほどの募金をいただき、1時間の募金活動は終了しました。

・募金の集計

募金終了後、直ちに市立青少年会館に移動し、会館のミーティングテーブルを利用し、募金の集計を行いました。

金種ごとに分け、金種ごとの小計をし、募金の総額を確かめたところ、280,524円という驚くほどの額を参加スカウトに報告することができました。素早い反応と行動力を募金活動に結びつけたVLACと県ユースに敬意を表したいと思います。



・募金の寄託

私たちには多くの方から寄せられた募金を、確実に被災者に送り届ける責任があります。その意味からもできるだけ早く、公的機関に募金を届けるため、「日本赤十字社」または「神戸新聞社」のいずれに寄託するか検討しましたが、日本赤十字社の受け入れ態勢がこの時点で不明確であったため、神戸新聞社会部から紹介をもらい「神戸新聞厚生事業団」と連絡を取り、時間外であったが受領していただいた。

寄託名義は「日本ボーイスカウト兵庫連盟」としました。なお、神戸新聞事業団の扱い寄託金としては兵庫連盟が第一番でした。

寄託によって、一応の責任を果たしましたが、いくつかの反省とともに今回の募金活動を評価しておきたいと思います。



◎募金活動の評価と反省

募金活動は金額の多寡を競うべきものではなく、この活動を通じて、スカウトたちが人の善意、助け合いの大切さや思いもよらない人から寄せられる募金の重みを体で感じとり、そのスカウトの成長、教育効果に結びつくものでなければなりません。

その意味では、今回の参加スカウトは多くのものを感じ、受け止めたと評価してよいと考えます。

しかし、急きょ、準備不足を覚悟して取り組んだために、スカウトとして、社会教育の場として足りなかった部分もありました。

(1) 募金活動の主体、募金の名称、趣旨、募金の寄託先の明確化について

限られた時間の中で、横断幕や募金箱の準備は間に合い、寄せられた募金をどこに届けるか、実施する前に、参加スカウトに趣旨とともによく理解させ、説明できるようにしておくことも直前の説明で行えたが、募金の目的や、実施主体、寄託先などを明らかにした趣意書を用意しておくことはできませんでした。

また、横断幕等に寄託先を明示しておくほうがよかったと思います。

(2) 募金の前の準備と実施時について

募金の5W1H(誰が、いつ、どこで、何を、誰に、いくら)など、準備から寄託、県連への報告まで把握すべき募金責任者を事前に明確に決めず実施しましたが、募金の経緯と経理を明瞭にするためにはやはり、きちんと事前に決めておくべきでした。今回は、結果的に私とその役目を行いました。

場所によっては、道路使用許可申請(所轄警察署)や、施設の使用許可が必要な場合がありますが、今回はこの手続きを失念し、許可を得ずに実施しました。ボーイスカウトの社会的責任を考えれば確認、許可申請が必要でした。結果的には、特別な指導はありませんでしたが、日連のガイドラインにも示されており、今後繰り返しこの活動を実施するうえで忘れてはならないことでしょう。

寒い時期にもかかわらず、参加スカウトは全員制服姿で募金を呼びかけました。

コミ・クルーは名札も着用し、責任の所在を明確にするよう配慮しました。

今回短時間に多額の募金が寄せられたのは、もちろん大震災への関心の高さ、阪神・淡路大震災の被災地であったことが大きな要因ですが、ボーイスカウトに寄せられる信頼感、ボーイスカウトなら間違いない届けてくれるだろうという市民の信頼があったと感じます。その意味で、制服の正しい着用ということが普段以上に大切になります。

(3) 募金の寄託について

募金直後、スカウトとともに募金の集計をし、参加者に報告をすませ、その日のうちに寄託先に届けることができたことはよかったと思います。事前に寄託先を決めていなかったため、募金集計作業と並行して寄託先に確認をしましたが、たまたま今回は神戸新聞の知り合いの記者からの紹介で当日受け取っていただけただけのもの、場合によっては翌日以降の寄託になっていたことも考えられます。

募金活動は土日に行われることが多いことを考えると、事前に寄託予定先に確認を取っておくほうがよいでしょう。ちなみに、ここ当分は、神戸新聞厚生事業団では土日も9:00~17:00まで受け付けてくれるようです。新聞社等に寄託すると何日か後に記事が掲載されますので、寄託の報告を形を変えてできる面があります。平日であれば、持参だけでなく、振り込みを利用するのでもできます。

なお、当然のことながら、参加スカウトは、お茶ささも自前で遠くから参加してくれました。

(4) 今後の活動に向けて

街頭募金は善意に基づき、善意に支えられ行われます。その結果を募金して下さった方に知らせる方法を講ずることも大切だと思います。不特定の方に知らせるのは難しいように思われますが、領収書等の写しを入れたお礼のチラシを用意して、募金活動を行った同じ場所でお礼の声をかけチラシを配る、という方法も考えられます。次回同じところで募金活動を行う時はチラシを準備して配るか、少なくとも口頭で報告すべきです。一連の流れを通じて、募金とともに被災地への関心を引き起こし、スカウト活動のアピールもできます。

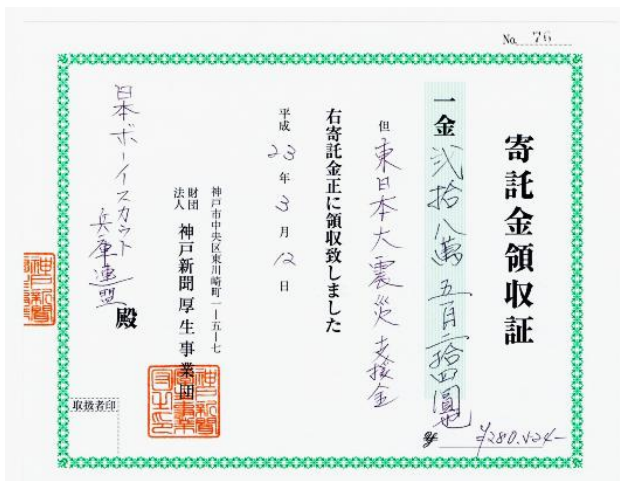
あの募金はどうなったんだろうか、ということがないようにしなければなりません。

今後、継続して支援活動を実施していくために、スカウトの熱意に頼るだけでなく、さらなる工夫が必要だと思いました。

今後の情勢の変化によっては、スカウトの支援活動の場が大きく広がることもあるかもしれません。それまでは、満を持して募金活動に取り組みましょう。

Be Prepared !

※文中の写真は今回の募金活動の写真です。参考までに、領収書と礼状の写し(縮小版)、新聞掲載記事(平成 23 年 3 月 17 日朝刊)を掲載します。



日本ボーイスカウト
 長尾連 様
 平成 23 年 3 月 12 日

神戸市中央区東川崎町 1-5-7
 神戸情報文化ビル 9 階
 財団法人神戸新聞厚生事業団

お礼のことば

時下ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。このたびは、東日本大震災被災者支援金として、神戸新聞厚生事業団に多額のご寄託をいただき、まことにありがとうございます。

社会福祉のニーズが高まる現在、皆様のご理解で、善意のご協賛をいただきますことは、私ども福祉事業にたずさわるものとして感謝に堪えません。ご趣旨にしたがい地域福祉金として有効に活用させていただきます。何とぞ今後とも温かいご支援をくださいますようお願いいたします。

ここにお礼のごあいさつを申しのべますとともに、領収証をお届けしますのでご査収ください。

- 東日本大震災 義援金ありがとう**
 ■神戸新聞厚生事業団
- 28万524円 中央区、日本ボーイスカウト兵庫連盟▽19万2640円 同、被災地メーデー実行委員会▽2千円 西区、大中和子▽5千円 中央区、匿名▽3万円 長田区、宮丘町自治会▽5千円 豊田修▽1万円 須磨区、崎山佳彦▽1万円 灘区、藤田和浩▽1万円 垂水区、匿名▽1万円 兵庫区、岸本中▽1万円 須磨区、梅田孝治▽3千円 同、匿名▽5千円 兵庫区、匿名▽千円 加古川市、鷹野浩之▽4千円 明石市、匿名▽10万円
 - 東灘区、宮田幸長▽1万円 兵庫区、大日眞▽1万円 芦屋市、中川伸一▽2万円 500円 東灘区、中山稔規▽300円 須磨区、板宿会▽1万円 三木市、本郷猛▽3万円 中央区、森忠政▽1万円 須磨区、熊谷信哉▽1万円 匿名▽5万円 中央区、匿名▽5千円 灘区、澤野孝▽5千円 中央区、川畑純子▽金一封 西区、小野淳子・敦子▽22万4112円 明石市、太陽陽浩▽3/12・13 試飲見学会▽10万円 中央区、田中厚子▽2万円 同、田中友加▽10万円 垂水区、(故)大岩はな子▽5万円 灘区、匿名▽1万円 西尾崎裕子▽1万円 東灘区、坂本由紀子▽1万円 兵庫区、橋谷速・伊登恵子▽1万2千円 同、匿名▽1万円 同、三好基夫・英智▽1万円 姫路市、鷲田三雄▽10万円 長田区、あけほの介護センター・平井富雄▽1万円 兵庫区、筒井進▽1万円 北区、小林茂喜▽2万5千円 中央区、鉄板焼おくの都美人日本酒の会▽2万2300円 兵庫区、浜山寄席運営委員会▽1万円 灘区、安森章▽1万5千円 中央区、徳原文子▽2万円 灘区、宮松裕子▽4万2075円 家庭養護促進協会里親運動をすすめるためのチャリティ映画会来場者有志